

加速する「食」のグローバル化 有事にも食料供給の 安定をはかるために



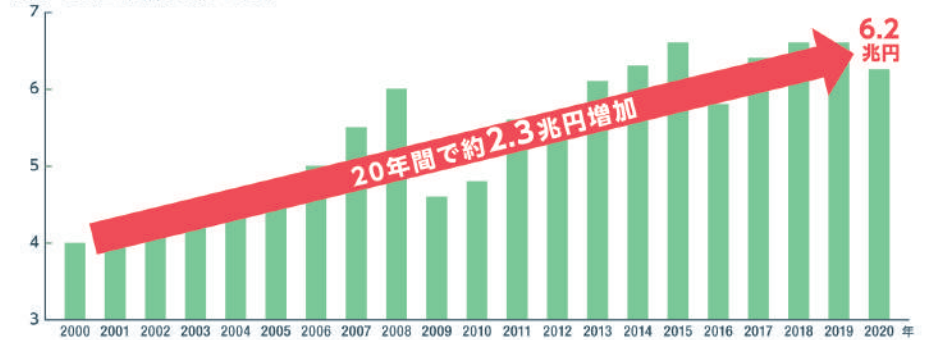
JAグループサポーター
林修

なぜ今? 国消国産

農産物の輸入額は 大きく増加

日本の食料自給率(カロリーベース)は38%と低迷していますが、2000年からの約20年間で、農産物の輸入額は約2.3兆円も増え、2020年には約6.2兆円輸入しています。一方で、輸出額は同じ期間に約4,900億円増加し、2020年の輸出額は約6,600億円となっています。

(兆円) 農産物輸入額の推移



出典:農林水産省

「食」のグローバル化が 日本の食料供給に与える影響

近年、農産物市場を含めた経済連携協定の発効がすすみ、「食」を取り巻くグローバル化が加速しています。これらの経済連携協定は、私たちの食生活に豊かさを与えてくれる一方で、日本にとっては食料の輸入増加を促す可能性があり、それは結果として、さらなる食料自給率の低下を招く可能性もあります。

近年発効した経済連携協定

2018年 発効	2019年 発効	2020年 発効
TPP11	EIU-EPA	日米貿易協定

だから今! 国消国産

「国消国産」で、輸入に依存せず食料供給に安定を

食料自給率が低い状態で万一輸入がストップしてしまったら、国内の食料需要を満たせるのか。コロナ禍で実際に、約20か国が食料の輸出規制に踏み切りました。幸いにも、それらの国から日本は食料を多く輸入していなかったため、大きな影響はありませんでしたが、輸出国もいざという時は自国内の供給を優先する傾向がわかりました。「食」のグローバル化がすすむ中だからこそ、「国」民が必要とし「消費」する食料は、できるだけその「国」で生「産」という「国消国産」をすすめていくことに、大きな意味があります。

ここがポイント!

- 日本の農産物輸入は増加傾向で、2020年の輸入額は6.2兆円にのぼる
- 「食」のグローバル化がすすみ、さらなる食料自給率低下の可能性
- 輸出国もいざという時は自国内の供給を優先、「国消国産」で食料供給に安定を

